

## 難聴特別支援学級（さくら）国語科学習指導案

1 単元名 よく見てかこう「しらせたいな、見せたいな」

2 目標

- ・好きな動物について、家の人に書いて知らせようとする。（国語への関心・意欲・態度）
- ・書こうとする題材に必要な事柄をよく観察して書く。（書くこと：(1)イ）
- ・家の人にわかるように語と語の続き方に注意して書く。（書くこと：(1)エ）
- ・姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書く。（言語についての知識・理解・技能：(2)ア(ア)）

3 指導にあたって

(1) 教材観

本単元では、相手や目的を意識しながら知らせたいものの絵を描き、そこに書き込んだ特徴などの言葉に、「なにが」「どこが」にあたる主語を対応させていくことで、「～は、…です。」という主述の整った文を作ることをねらいとしている。

児童にとって身近な相手を設定することで、文字や語を書く抵抗感を少なくし、楽しんで書くことができる。また、目的や意図に応じて適切に表現する力につながる教材である。

(2) 児童観

1年生1名の学級である。会話は音声だけでなく、文字や絵、手話等の視覚的なコミュニケーション手段を併用し、お互いの理解を確認しながら伝え合うようにしている。絵や手話等に音声と文字を対応させることで、言葉の習得にもつながるようにしている。

書くことについては苦手意識を持っており、プリントなどを見ただけで「難しい」と言うこともあるが、誕生日カードを渡したり、ほしいものを伝えたりしたいという気持ちがあるときは、自分の書ける言葉をすすんで書こうとする。

発話は短い言葉だが、自分の思いを伝えようとする様子がみられる。カレンダーを指さしながら「本」「買った」と言ってきた場合は、教師が「昨日、本を買ったんだね」と言い換えたり、ひざを見せながら「痛い」と伝えてきた場合は、「ひざが痛いんだね」と言って聞かせたりすることで、詳しく話すことを意識できるようにしている。また、場面に応じて適切な表現ができるよう、穴あき文や、よく使う言葉を視覚的に示しておくことで、示しておいた内容については、確認しなくても文として表現できるようになってきた。

(3) 指導観

書くことに対する抵抗感を少なくするため、身近な相手である母へ、自分の好きな犬の様子を手紙で知らせるといった設定にしたい。また、保護者にビデオレターの作成や、返事を出すことについて協力を依頼したいと考えている。ビデオや写真等、児童が目に見える形を多く取り入れることで、より明確に相手や目的意識をもち、文を作る学習について見通しがもてるようにしていきたい。

語彙の習得については、自立活動の「コミュニケーション」の内容との関連を重視し、スリーヒントゲーム等を並行して行っていきたい。スリーヒントゲームは、「～は、…ですか」と相手に尋ね、「はい」か「いいえ」の返事をもとに、手持ちのカードから相手と同じ絵のカードを選んでいくゲームである。ゲームで、授業で必要となる語彙を扱い、児童がそれを用

いて犬の特徴を表現できるようにしていきたいと考えている。

特別支援学級部テーマの『自分の思いを自分らしく表現できる子』にせまるために、スリーヒントゲームを十分活用し、伝え合うことの楽しさを感じられるようにしたい。ゲームで身につけた文型を生かし、実生活でも文で伝えることを楽しんでほしい。

4 指導計画・評価計画（総時数5時間・本時第二次の3時）

次	時	ねらい	主な学習内容	評価規準	評価の観点			
					関	書	言	
一 見 通 し を も つ	1	・スクールカウンセラーの飼い犬の様子を母へ知らせるというめあてをもととする。	・母からのビデオレターを見て、スクールカウンセラーの飼い犬の様子を母へ知らせようという意欲をもつ。	・母に犬のことを知らせようとしている。 (発言・行動観察)	○			
	二 特 徴 を 表 す	1	・知らせたいものをよく観察し、絵を描く。	・犬の絵を観察カードに描く。	・色や形などをよく見て絵を描いている。 (観察カード)		○ イ	
		2	・知らせたいものの特徴を知り、書く。	・犬の特徴を観察カードに書く。	・色、形、大きさなどの特徴を書いている。 (発言・観察カード)		○ イ	
3 (本時)		・言葉を組み合わせ、主述の整った文を作る。	・主語や特徴を書いた短冊を組み合わせ、「～は、…です。」の文を作る。	・特徴がわかるように、主述の整った文を作っている。 (発言・短冊)		○ エ		

四 伝 え る	1	・良い姿勢で正しく鉛筆を持ち、丁寧に字を書く。	・前時に作った文を母への手紙として清書する。	・正しい姿勢で鉛筆を持ち、丁寧に手紙を書いている。 (発言・短冊)			○ (2) ア (ア)

## 5 本時の学習（第二次の3時）

(1) 教材名 しらせたいな、見せたいな

(2) ねらい 言葉を組み合わせ、主述の整った文を作る。

(3) 評価規準 特徴がわかるように、主述の整った文を作っている。 (書く能力)

(4) 本時に生きる学び

これまでに児童は、スリーヒントゲームで、「目は、茶色ですか」などと相手に尋ねたり、相手から質問されたときに「はい」か「いいえ」で答えたりしながら、カードに描かれた絵と特徴を表す言葉を対応させる経験をしてきている。本時では、観察カードに犬の特徴を書き込んだときと同様に、スリーヒントゲームの文が表す特徴を絵に書き込んでいく。ゲームで親しんできた文と絵の対応関係を視覚的に表すことで、観察カードに書いた特徴が、スリーヒントゲームの文と同じように「目は、黒です」という形で表せることに気づかせていきたい。

(5) 準備・資料等

写真(母、犬、手紙を書いたときのもの)

スリーヒントカード

スリーヒントカードの文を書いた短冊

手紙

ワークシート

語彙の学習で使用した具体物

観察カード

拡大したスリーヒントカード

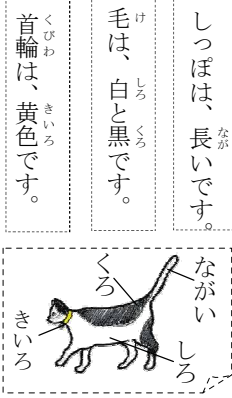
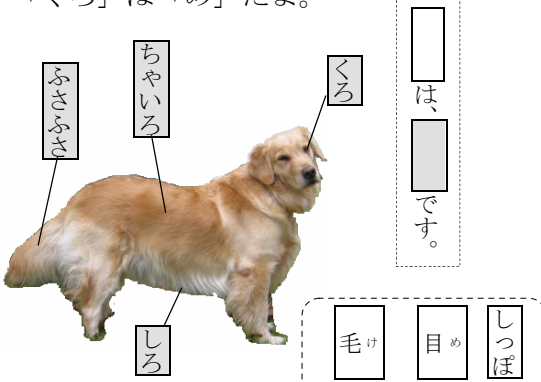
拡大した観察カード

短冊(主語用、述語用)

は、です。の台紙

封筒・便箋

(6) 本時の展開

学習活動	配時	子どもの意識の流れ	教師のかかわり方(・) 支援○ 評価◎
<p><b>【つかむ】</b></p> <p>1 スリーヒントゲームをし、文と絵を対応させる。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、母がわかるように文を作るという課題をつかむ。</p>	<p>10</p>	<p>〈スリーヒントゲームをしよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「首輪は、青ですか。」</li> <li>・「ひげは、長いですか。」</li> </ul> <p>〈どんなカードだったかな〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ねこ」</li> <li>・「きいろ」</li> <li>・「しっぽ」「ながい」</li> <li>・「しろとくろ」</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～は、…ですか。」という質問に絵が当てはまるときは「はい」と答え、「～は、…です。」の短冊を黒板に貼る。</li> <li>・児童の発話が聞き取りにくいときは、手話や文字で確認する。</li> <li>・拡大したカードを貼り、絵と文の対応を確認しながら特徴を書き込んでいく。</li> <li>・母と犬、母に手紙を出したときの写真を見せ、意欲をもたせる。</li> <li>・手紙を書く際は、単語のままではなく、文にすることに気づくよう、以前もらった手紙を見せて観察カードと比べるようにする。</li> </ul>
<p><b>【考える】</b></p> <p>3 よりわかりやすい文になるように、述語に合う主語を考える。</p>	<p>15</p>	<p>〈伝え方を考えよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんに犬のことを伝えるんだっとな。</li> <li>・観察カードのままだとわかりにくいな。</li> <li>・手紙は文で書いたほうがいいな。</li> <li>・スリーヒントゲームみたいに文にするといいな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>お母さんに伝える文を作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スリーヒントゲームの文と同じようにしよう。</li> <li>・「～は」をつけよう。</li> </ul> <p>〈観察カードに書いた言葉はどこのことかな〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふさふさ」なのは「しっぽ」だよ。</li> <li>・「ちゃいろ」も「しろ」も「け」だよ。</li> <li>・「くろ」は「め」だよ。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チャウは、ちゃいろです」のように主語を「チャウ」にした場合は、「チャウの何が茶色ですか」と問い返す。</li> <li>・主語を自分で書けないときは、主語を書いたカードの中から選択できるようにする。</li> </ul> <p>◎評価規準①(発言、短冊)</p> <p>○「めは、ふさふさです。」のように主述の組み合わせが適当でない場合は、「ふさふさ」について学習したときの具体物を提示する。</p>
<p><b>【深める】</b></p> <p>4 できた文の主語と述語が正しく結びついているかを確認し、ワークシートに記入する。</p> <p><b>【まとめる】</b></p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時へつなげる。</p>	<p>10</p> <p>5</p>	<p>〈できた文を確認しよう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しっぽは、ふさふさです。」</li> <li>・「めは、くろです。」</li> <li>・「けは、ちゃいろとしろです。」</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「～は、…です。」の文を作ったよ。 お母さんにもきくと伝わるよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文にしたら、わかりやすくなったよ。</li> <li>・次の時間は手紙を書こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抵抗感を示し、ワークシートの記入が困難な場合は、読んで確認するようにする。</li> <li>・手紙を出したときの写真に注目させたり、封筒と便箋を見せたりして期待感を高める。</li> </ul>

